

献血前のご確認

※下記に該当する方は、献血をお断りすることがあります。

- ① 3日以内に薬を飲まれた、注射をされた方（裏面参照）。
- ② 3日以内に歯科治療をされた方（歯石除去も含む）。
- ③ 直近の食事を2食抜いた方、睡眠時間が4時間以内の方。
- ④ 海外から帰国後4週間以内の方。
- ⑤ 今までに輸血や臓器移植を受けた方。
- ⑥ 英国に昭和55年（1980年）～平成8年（1996）年までに通算1ヶ月（31日）以上の滞在歴のある方。

—以下に該当する方も献血をご遠慮願います—

(1)体調が悪い方・現在、激しい嘔吐や下痢の方。

(2)今までに大きな病気をした方。

※原則としてB型肝炎、がん、血液疾患、心臓病、脳卒中、てんかん。

※治癒後一定期間経過後献血可能な場合もあります。医師にご相談願います。

(3)下記のいずれかに該当し、中南米地域(カリブ海諸国は除く)を離れてから6ヵ月以上経過していない方。

(a)中南米諸国で生まれた、または育った。

(b)母親または母方の祖母が中南米諸国で生まれた、または育った。

(c)中南米諸国に連続して4週間以上滞在、または居住したことがある。

(4)6ヵ月以内にピアス・刺青(タトゥー)をした方。

※ピアスはピアッサー、または医療機関であけた方は1ヶ月過ぎていれば献血可能です。

(5)B型やC型の肝炎ウイルス保有者(キャリア)と言われた方。

(6)梅毒などの性病、マラリアにかかったことがある方。

(7)エイズの検査が目的の方。

(8)6ヵ月以内に次のいずれかに該当することがある方。

①不特定の異性または新たな異性との性的接触があった方。

②男性どうしでの性的接触があった方。

③出産、流産があった方。

④開胸、開腹、開頭など大手術を受けた方。開放性骨折をした方。

(9)現在妊娠中、または授乳中の方。

※出産後1年以内の授乳中の女性は献血できません。

※授乳はお子様が満1歳になっていれば可能、もしくは医師の判断になります。

※その他、当日の医師の判断になります。



献血！ できる薬・できない薬

お薬には、種類や服用期間によって献血できない場合があります。

(※ジェネリック医薬品も含みます)

献血の際には必ず「お薬の名前」がわかるようにして来てください。

下記には主なお薬を示しています。

詳しくは献血検診医師または受付職員におたずねください。

1. 当日服用していても献血できるお薬

(ただし献血者の健康状態を考慮し、献血できない場合もある)

- ・ 市販のビタミン剤・栄養ドリンク剤（リポビタミンD等）
- ・ ミネラル剤（鉄剤による貧血治療中を除く）
- ・ 漢方薬（服用目的によりできない場合がある）

・抗アレルギー薬

(エンペラシン・セレスタミン等ステロイドが含まれてるものは献血できない場合がある)

市販の花粉症・アレルギー性鼻炎薬

アレグラ、アレジオン、アレロック、オロパタジン塩酸塩、クラリチン、ザイザル、タリオン、ディレグラ、ピラノア、フェキソフェナジン塩酸塩、プラナルカスト、ロラタジン・・・等

・脂質異常症（高脂血症）治療薬

リピトール、メバロチン、クレストール、エパデール、イコサペント酸エチル・・・等

・低用量ピル

・降圧剤（複数剤の降圧剤を服用している場合でも採血可能）

アムロジピン、アダラート、オルメテック、プロプレス・・・等

・下剤・市販緩下剤

・整腸剤

・痛風・高尿酸血症治療薬（痛風治療中は不可）

2. 前日までの服用であれば献血できるお薬

・解熱鎮痛消炎剤（血小板採血以外で、症状がない場合や予防的服用に限る）

市販解熱鎮痛薬、アスピリン、イブプロフェン、バファリン、ロキソニン、PL顆粒・・・等

・市販風邪薬（血小板採血以外で、症状がない場合や予防的服用に限る）

3. 服用中止から3日間は献血できないお薬

- ・ 抗生物質、および抗菌剤
- ・ 抗ウイルス薬
- ・ 止痢薬（下痢止め薬）

4. 原疾患で献血できないお薬

- ・ 抗けいれん薬
- ・ 抗不整脈薬
- ・ 抗甲状腺薬
- ・ 強心薬
- ・ 糖尿病薬（※食事療法のための治療は医師の判断により献血可能）
- ・ 痛風治療薬（治療中は不可）

5. その他

- ・ チガソン（乾癬治療薬）（献血不可）
- ・ ラエンネック、メルスモン（ヒト由来プラセンタ）（献血不可）
- ・ プロペシア、プロスカー等（1ヶ月献血不可）
- ・ アボダート、アボルブ（6ヶ月献血不可）

